

## 月読神社・松尾大社

ふちんかん

### 鈴虫寺から松尾大社への道

鈴虫寺をあとに松尾大社へ向かう。東海自然歩道に指定されている小道を歩く。ときどき案内板があるものの街中の生活道路である。なんとなくの方向感と地図アプリのお導きにより迷うことはなかった。



途中で、新酒ができたことを知らせる杉玉を大量につるしている建物があった。杉玉のメーカーであろう。

### 月読神社

10分足らずで月読神社に到着。住宅地に突然現れる朱の鳥居が目を引く。

月読神社は松尾大社の摂社とのこと。摂社というのは本社(この場合松尾大社)に由緒の深い神社をいう。本社内によくある小さな祠は末社で、摂社は本社と末社の間の位に位置するらしい。

この月読神社は、天文・航海の神として信仰された月読命(つきよみのみこと)を祀っている。境内にある「月延石」は安産祈願や子授けのご利益があり、「むすびの木」には、縁結びや恋愛のご利益があるとのこと。ちなみに月読命は古事記にある伊邪那岐命の三貴子であり、姉が天照大御神、弟が須佐之男命である。



# 阪急電鉄 嵐山線

## 松尾大社

月読神社から歩いてこちらでも10分足らずで松尾大社である。鳥居のサイズが月読神社の2倍以上になり、さすが本社の威容である。その鳥居から榊の小枝を束ねたものが垂れ下がっているのが目につく。これは「脇勧請」といい、十二の束で月々の農作物のでき具合を占ったとのことで、鳥居の原始形式を示しているらしい。

境内は、大きな楼門・拝殿の先に、中門があり、その先に重要文化財である本殿がある。

そして酒の神様・松尾大社ならではの思われるのが、神輿庫に積み上げられた全国から奉納された菰樽群である。ぎっしりと積み上げられているが、入れ替えなどはあるのだろうか。

さて、この日は、梅雨入り前の好天であり、熱中症の危険もあったので、境内の散策は早めに切り上げ、境外にある「お酒の資料館」に引き上げた。やんわりとエアコンが効いており、助かる。肝心の展示は、酒の歴史や製造過程などで、抜けは無いのだが「一通りの展示」どまりという感じである。まあ休憩室としての役割は十分に果たしている。



境外にはみたらし団子で有名な茶店や物販店もあった。暑かったので「お酒」フレーバーの氷菓があれば、間違いなく買っていたのだが、残念ながらそのような商品は見当たらなかった。技術的に難しいのかとも思ったが、ネットで調べると他では作っているところもあった。ここは松尾大社の威厳にかけて日本一旨い日本酒アイスを作っていたいただきたいところである。

(おわり)